

平成27年度 生活科・総合授業づくり講座

1 開 会

2 山形市理科教育センター所長挨拶

3 研 修

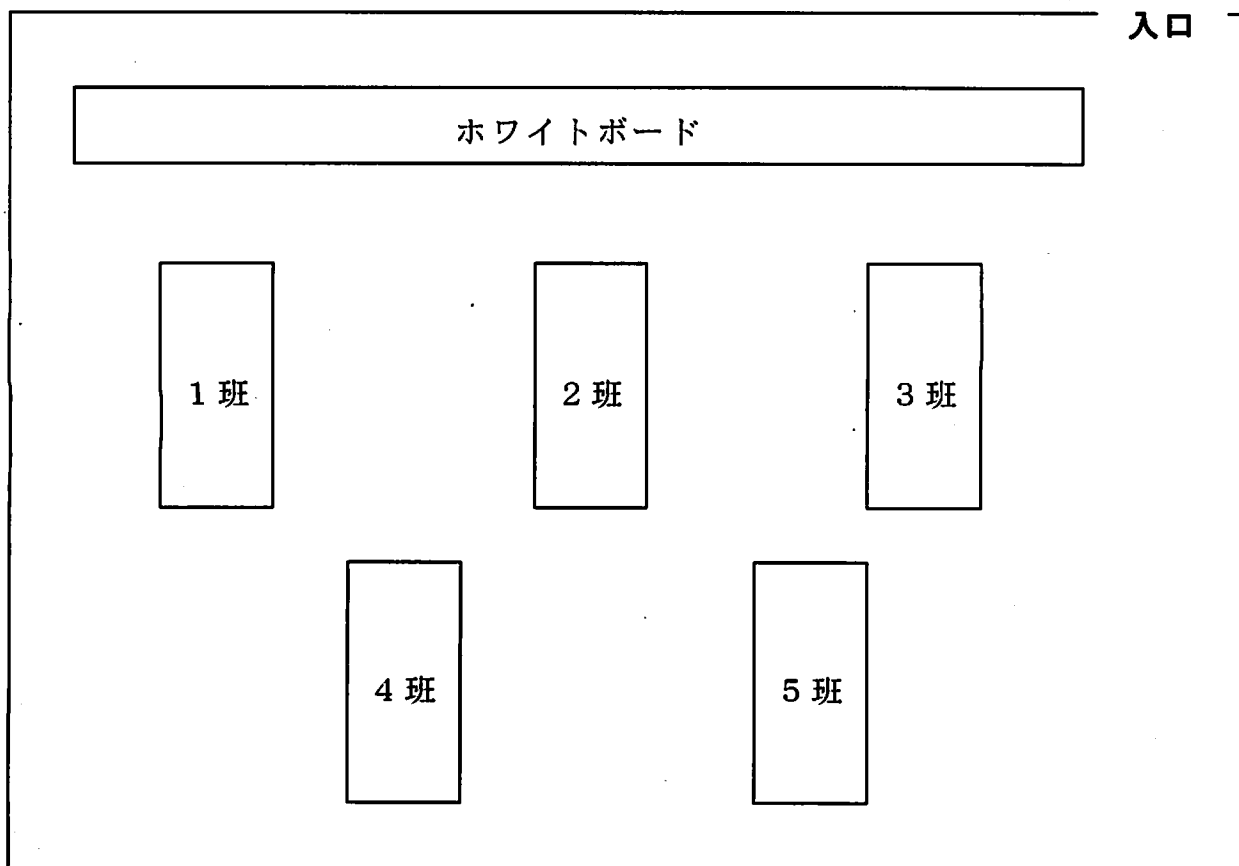
(1) 総合的な学習の時間の実践発表

山形大学附属小学校 教諭 江波 大 先生

(2) 実践発表をもとにした話し合い

(3) これからの生活科・総合的な学習の時間に向けて(総評)

4 閉 会



総合的な学習の時間の単元づくりを考える
～草木染めによる染め物を教材とした実践から～

山形大学附属小学校

江波 大

山形市生活科・総合授業づくり講座

総合的な学習の時間(学年・学級タイム)において目指す子どもの姿

子どもの思いや願い

「もっとこうしたい」「できたらいいな」

様々な困難

課題の解決・願いの実現

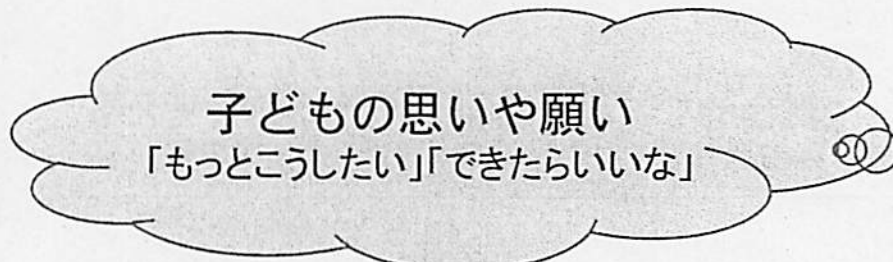
「なんとかして解決したい」

よりよい納得

豊かに生きていく

よりよい納得をもとめながら、
自分のくらしをつかっていく子ども

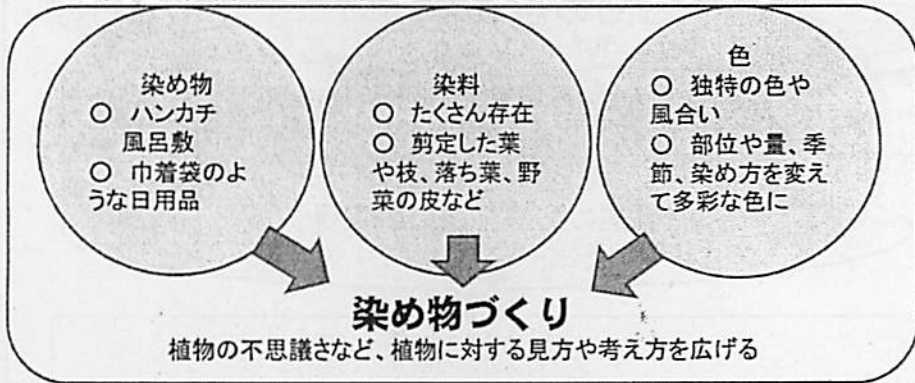
総合を進めるうえで大切にしたいこと



高めるものは何なのか？

教材について 草木染め

植物を原料にして布地や布製品に染色する方法



地域素材として

七日町の「布四季庵」

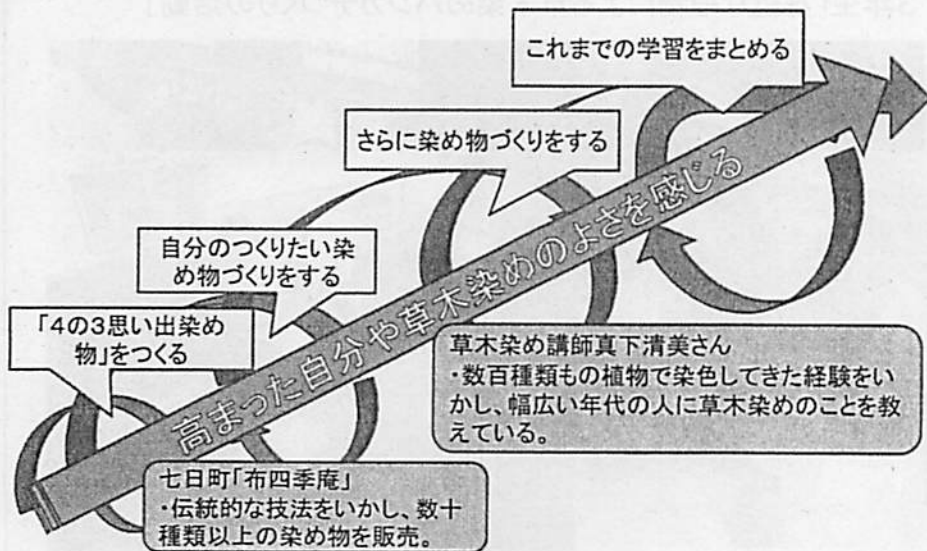
草木染め講師真下清美さん

「もっと草木染めを楽しもう！」単元計画(全50時間)

- 1 去年の学習をふり返りながら、
草木染めで「4の3思い出染め物」をつくる。(11時間)
- 2 草木染めのことを調べながら、
自分のつくりたい染め物づくりをする。(10時間)
- 3 調べたことや教えてもらったことをいかしながら、
さらに染め物づくりをする。(15時間)
- 4 これまでの学習をふり返り、
染め物ファイルなどにまとめる。(14時間)

目指す子どもの姿
高まった自分や草木染めのよさを感じる子ども

単元イメージ図



子どもたちの意識と導入場面

3年生での学習経験

- ・身近な植物による草木染めハンカチづくりの活動

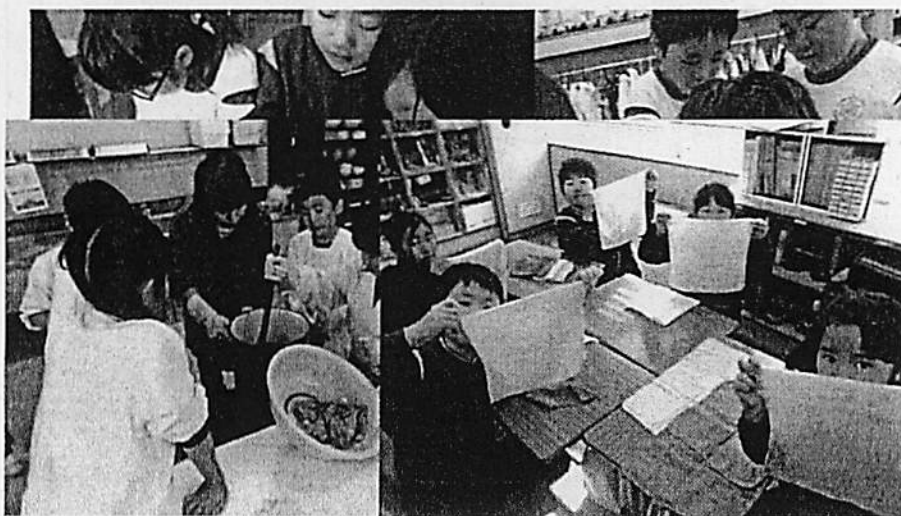
子どもの作文から

- ・私は3年3組～4年生に上がる時、クラスがえをするのがないのは初めてで『長い』と思ったけど、あっという間でした。私がやりのこしたことは『草木ぞめ』の学習で、そめたい物があります。お茶の葉、しそ、3回そめた朝顔でやりたいです。でも、かんさつ園が今工事中だから『朝顔』はできないと思います。(でもやりたいなあー)私はどんな色でもいいのでそめて4年生の時の思い出がくいののこらないようにしたいです。

もの足りなさ

子どもたちの意識と導入場面

- ・3年生「身近な植物による草木染めハンカチづくりの活動」



「4の3思い出染め物づくり」の場面

・子どもの言葉

「あと半年でこのクラスとも(クラス替えによって)お別れだから、このクラスでよかったと思えるような物を残したい。」

・ムラサキキャベツで染めた思い出スカーフをつくろう!

ドッジボールのクラスマッチでは、子ども同士で「この染め物を身につけて団結しよう」という話になり、女子は髪に、男子は手首に巻きつけて学習にのぞむ

自分ごととしてとらえられる素朴な問い

「4の3思い出染め物づくり」の場面



「自分のつくりたい染め物をつくろう」の場面

- ・どんな染め物をつくることできるのかイメージをもつ
- ・伝統的な技法をいかした染め物を販売している
七日町布四季庵を訪ねる
- ・「自分が作れないような染め物がいっぱいあって、これ、本当に草木染めなの？と思いました。わたしは、クッションにしようか、スカーフにしようかまよっています。」



染めることから染め物への興味関心

- ・「自分もベニバナで染め物を作り、山形らしさを表現したい」



自然科学の楽しさから、地域伝統のよさを感じる楽しさ

「自分のつくりたい染め物をつくろう」の場面

- ・布四季庵を訪ねる



「自分のつくりたい染め物をつくろう」の場面

- ・「やっぱり鮮やかに染まらない...」「思い通りに染まらない...」
- ・本を読んだり、パソコンで調べてもよくわからない
- ・「私のお母さんが草木染めをしている人を知っているから話を聞いてみませんか？」
- ・真下さんから話を聞く
- ・真下さんの「(草木染めは)こうするとこう染まるというきまりがないから面白い。それを探ることに夢中になってしまう。」
- ・「真下さんも自分たちと一緒に気持ちなんだね。」



追究意欲の高まり

本物との出会い(もの・ひと・こと)

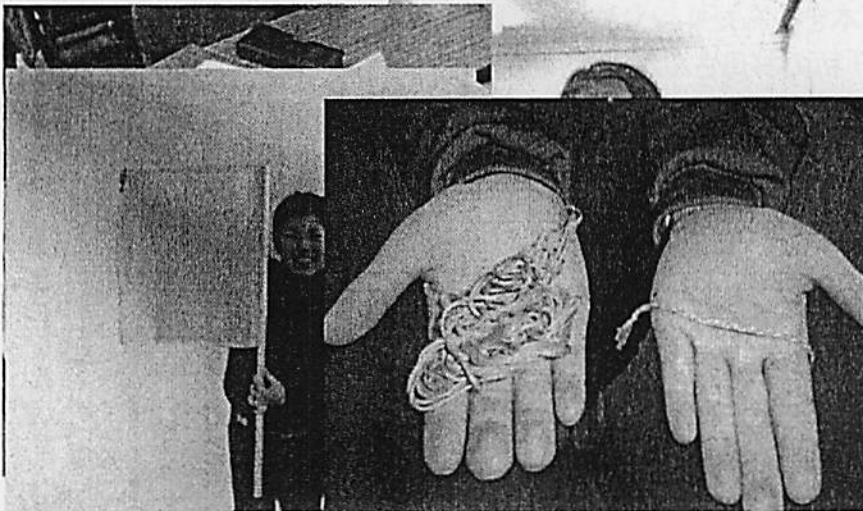
「自分のつくりたい染め物をつくろう」の場面

- ・真下さんから話を聞く



「自分のつくりたい染め物をつくろう」の場面

・自分でつくった染め物



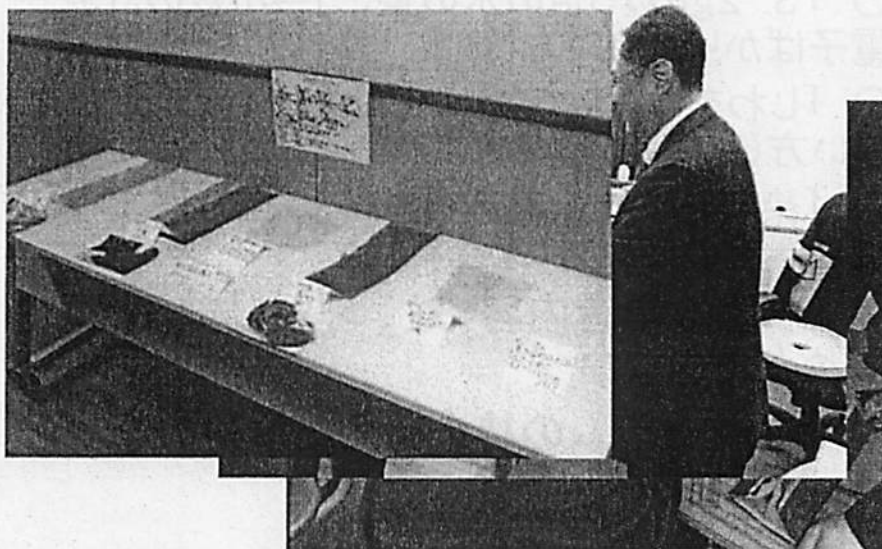
学習のまとめの場面

○知ることができたこと ○できるようになったこと
○考えてきたこと を振り返るようにする

- ・ 『私の草木染め』2年間の学習の成果をまとめた本
「2年間の自分の成長がわかるから。それに、いろいろな人にすぐ見せることができるから。」
- ・ ひょうたん池のサクラの枝で染めたスカーフ
工事によって埋め立てられる学校裏にあるひょうたん池を見て「ひょうたん池にある植物を染め物にして残したい」
- ・ たてわり班の下級生や班長へプレゼント
- ・ 染め物展示
「みんなに見てもらって、どう思うかアンケートをとりたい。」

他者からの素直な評価

学習のまとめの場面



この単元を通して身につけた力

○ 「この色に染めたいから、これを使おう。これを使うとこう染まるだろう。」

⇒ 演繹的・帰納的思考力

○ 「自分でやりたいことを決めて学習できた。」

「つぎつぎやらないといけないことができた。」

⇒ 課題設定力

○ 「この染められた布でどのような染め物をつくらうかな。」

⇒ 想像力

この単元を通して身につけた力

- 「3.2gの75倍の水の量？」→小数の計算・電子ばかりの使い方(算数・理科)
- 「しわを伸ばしてきれいにしたい」→アイロンの使い方(家庭科)
- 「染料をゆでて染液を作らないといけない」→調理器具の使い方(家庭科)
- 未習の学習内容でも、理解しないと草木染めができない
- ⇒ カリキュラムの枠を超えた教科の知識・技能の獲得

この単元を通して身につけた力

- 「草木染めは一人の力ではできない。協力しないといけない。」
- ⇒ 協力して物事を進める力
- 目的にあわせてまとめる
- ⇒ 表現力

子ども自ら追究するために
思いや願いを高めるものは何だろう？

・ 満足感

・ もの足りなさ

・ 自分ごととしてとらえられる素朴な問い

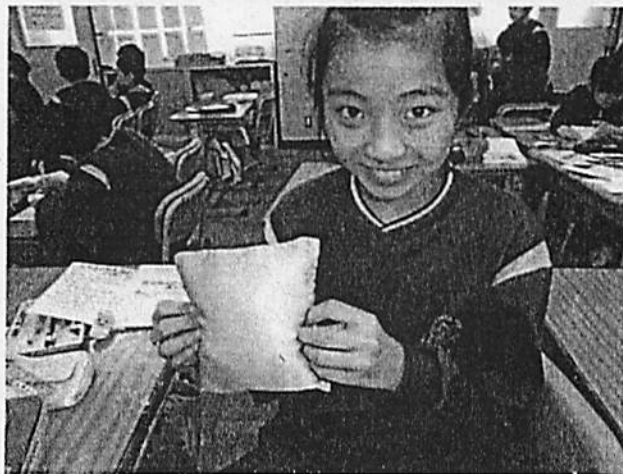
・ 本物との出会い(もの・ひと・こと)

・ 他者からの素直な評価

自覚させる

位置づける

教師の手立て



〈お気に入りのムラサキタマネギで染めたクッション〉
まとめ
「私の草木染め」ブック

総合的な学習の時間の単元づくり

- 単元をつくる際、大切にしたいこと
- 学習が進む中で悩むことや困ること

いっしょに考えてみませんか？

＜子どもの姿＞

1 昨年度のタイムの学習をふり返り、今年度の学習の見通しを持つ。(1時間)

去年の草木染は楽しかったな。植物を使っているんな色で染められるのが楽しかったよ。

去年したことで満足したというわけではないな。面白いということ以外にも草木染のいいところがありそう。

草木染のよさは他にもあるのかな

2 学校にある植物で、昨年度とちがう部位で草木染をする(5時間)

もう、秋だから花は咲いていないな。落ち葉とか枝でも染めることができるのかな。

葉や枝でも染めることができるなんて、びっくりするな。これも草木染のよさの一つになるね。土屋先生は草木染のよさをもっと知っているかもしれない。話を聞いてみたいな。

染め物にかかわる方に話を聞き、草木染のことをくわしく調べよう

3 染め物にかかわる方に話を聞き、草木染のことを調べる(15時間)

土屋先生は環境のことを大切に考えることができるのが草木染のよさと話していたね。たしかに、野菜の皮だとか枝だとかむだだと思っても、きれいな染物にできたよね。

お店の人は、昔から行われていた草木染を残したいといっていたよ。染物の商品がたくさんあって、お客さんも高価なものに買っていたね。やっぱり、草木染にはいいところがたくさんあるんだね。

4 調べたことをふり返り、草木染のよさについて話し合う(1時間)

今まで学習してきたことで、植物の不思議さ、色を染めることの楽しさ、環境にいいこと、エコなこと、伝統を守れるということ、趣味になれることなどたくさんの草木染のよさを見つけることができた。これまで染めたものや調べてきたことをまとめよう。

草木染のよさをまとめよう

5 草木染のよさを図鑑にまとめる(10時間)+国語科(5時間)

この植物でこんな色に染められます。ということだけでなく、草木染にはこんないいことがあります。というのがわかるような図鑑にしたいな。

みんなの力で、草木染のよさがわかるような図鑑が完成したよ。見るだけで草木染のよさが伝わるといいな。でも、実際に染めてもらったり、染めたものの実物を見てもらったりした方が伝わるんじゃないかな。お店屋さんを聞いて、訪れてもらいたいな。そして、よりたくさんの人に草木染のよさを知ってもらいたい。

草木染のよさを伝えたいな

6 4の3染め物屋を開く(15時間)

植物で染められる不思議さを伝えるために、来年理科を勉強し始める2年生に向けて染め物と一緒にしたり、みのり班長が小学校のことを忘れないように、学年の木の落ち葉や枝で染めた物を贈ったりだれか相手のことを考えたとお店に来てもらえるんじゃないかな。

今年は去年よりもっと草木染が楽しくなりました。なぜなら、去年よりレベルアップしたからです。わたしには、草木染にはたくさんいいところがあると思います。それは、植物を集めたり、染めたりするのに時間がかかっても、自分の思うような色になるまで何度でも挑戦できるということとか、植物を大切にできるということなどです。また、草木染にはいいところがあるかもしれないので、これからも、自分で草木染をやってみたいと思います。

＜教師の働きかけ＞

「草木染のよさは他にもあるのかな」という思いをもつことができるようにするために、これまでの草木染の学習において満足していなかったり、不十分さを感じたりしている部分を明らかにしながら、前学年での学習のふり返りをする。その際、子どもが草木染に対してどのような考えを持っているのか、思考ツールとして「メリット・デメリット」を使用することで、可視化できるようにする。

草木染のよさについて実感することができるようにするために、昨年度とは違う植物の部位(枝、葉)や品種を使って体験をしたり、くらしの中で草木染とかかわっている方から直接話を聞いたりする活動をくり返し行う。

草木染のよさについて整理しながら考えることができるように、KJ法を用いて、「植物の不思議さを味わえる」「物を大切にすることにつながる」「昔からある伝統的な技を残せる」「環境にやさしい」「生活を楽しくする趣味になる」といった種類ごとに分けたり、それぞれを関係づけたりする。それを、教室に掲示することで、いつでも草木染のよさについてふり返ることができるようにする。

仲間とともに一つのものをつくることによるよこびを実感することができるように、クラスで図鑑にしてまとめるようにする。

子どもたちは「いい色で染めたい。」「スカーフやハンカチ以外のものにしたい。」「といった思いをもつと考える。そこで、鮮やかな色で染め残りやすい羊毛フェルトや比較的染めやすく、他のものにつくりかえやすい毛糸を使うようにする。

色々な植物で染められる驚きや感動、草木染のよさについて伝えたいという思いを持つことができるように、これまでの学習のふり返りで、草木染とそれにかかわる人、必要としている人のかかわりに目を向けさせる。そこで、その思いをもとに他の学級の友達を紹介する表現活動に取り組むようにする。その際、紹介する目的、方法、相手について学級で話し合う時間を十分に確保する。そうすることで、仲間とともに協力しながら、自分たちで活動をつくり上げることへのよこびを実感できるようにする。

〈まわりの子どもの姿〉

〈教師の働きかけ〉

1 去年の学習をふり返りながら、草木染でクラスの「思い出染物」をつくる。⑩

この仲間で過ごせるのも、半年。クラスのことをいつでも思い出せるような3組ならではの「思い出染物」をつくろう。

クラスの明るい雰囲気にあわせて、オレンジ色はどう？ミカンの皮で染められないかな？去年、友達はどうやって染めたのかな。

自分たちは青組だから、青に染めたい。去年紫キャベツでやってみたら、きれいな青で染められたよ。

思い出染物はみんな同じ色にしたけど、今度は違う色で草木染をしてみたいな。

大変だったけど、思い出に残る染物ができてうれしいな。草木染で他の物もつくってみたい。きっとできると思う。

思い出染物をしてきたけど、楽しい。いろんな物をつくってみたい。

模様をつけたいな。去年もやってみたかったんだけど、できなかったんだ。

もっと草木染を楽しみたい

2 草木染のことを調べながら、自分のつくりたい染物づくりをする。⑪

もっとレベルアップしたハンカチをつくってプレゼントしたい。そして自分の物として染めた布でブローチをつくりたい。

どんな染物を作ろうかな。どんな染物がお店に売られているのかな。気になるな。

草木染の道具袋はすてきな色だな。どうやって染めたのかな。

どんな色に染まるか分からないけど、使っていくうちにだんだん素敵だと思えてくるよ。だから、染められた布を見てから、どんな染物をつくるか決めたいな。後悔しないように布を染めるぞ。

きれいな色のタオルが売っていたよ。僕もつくってみたい。

サクラノボの木の枝でもあんなにきれいな色になるなんてびっくりした。他の木の枝でも染められるのかな。

布四季庵の染物みたいにすごくきれいに染めたいのに、思い通り染められない。もっと調べることが必要だよ。

自分が思ったような色に染めることができるようになってきたぞ。いい染物がつくれそうだよ。

3 調べたことや教えてもらったことをいかしながら、さらに染物づくりをする。⑫ 13時間

何回も染めてきて、レベルアップしてきた。調べて分かったことも増えてきたし、どんな風に染まるかわからないけれど早く染めたいな。

友達と協力して、模様のつけ方や、植物の材料のことなど、いろんなことを知ることができた。おかげで、うまく染めることができそうぞ。

他の人がどう思うかはわからないけれど、私の気持ちが入っているから、一番の染物だ。そして、できた染物を見るとハッピーな気持ちになる。真下さんも私と同じような気持ちなのかな。どんな気持ちで草木染めをしているのか聞いてみたい。

イメージ通りの色にも調節できるようになって、とてもいい染物ができたと思う。きっと何度もくり返し草木染をしてきたからだよ。初めのころは、ただ染物をつくるのが楽しかったけど、工夫したり、たくさんの種類の染物があることを知ったりして、さらに楽しくなった。

真下さんも何回も草木染をしてきて、どんどん楽しくなってきたんだね。色を大切にしたいという気持ちから色止めを工夫してきたという話や、思い通りの色が出なくてもそれがその時の色だし、その植物と染めた人の気持ちが決める色だから、それでいいんだという話は私もわかる気がする。

真下さんは、草木染は自分で自分の色をつくり出せるよさだとか、仲間と一緒にやるよさがあると話していた。ぼくも真下さんと同じだな。

草木染のよさをまとめて知らせたい

4 これまでの学習をふり返り、染物ファイルなどにまとめる。⑬

真下さんはたくさんの人に草木染のことを教えていたし、布四季庵ではたくさんの人に品物を売っていた。わたしたちもたくさんの人に草木染のことを教えたい。

今では、きれいな色の染物ができるようになった。お世話になっている人に染物をプレゼントしたい。

染める布によって違う色になることや、色々な植物で染められることをできたよ。

たくさんの人が草木染のことがわかるように、新聞をつくって見てもらいたい。〈教える〉

草木染のことをくわしく教えてくれた方へ、染物のプレゼントをつくろう。〈感謝する〉

面白くていい勉強になったな。今までの草木染を染物ファイルにまとめてみよう。〈整理する〉

今年は去年よりもっと草木染が楽しくなりました。なぜなら、何回もくり返し草木染をしてきて、去年よりレベルアップしたからです。しかも、世界でたった一つしかないわたしだけの染物ができてとても幸せな気持ちになったからです。それに、3組のみんなは草木染の専門家の人に近づけたんじゃないかなあとも思います。色の調節や色止めなど、たくさん工夫をしてきたし、染物に気持ちをこめてきたからです。これからも、自分のつくった染物だけではなく、つくった人の努力や気持ち、昔から山形にある草木染を大切にしていきたいと思います。

草木染に目を向けることができるようにするために、後期の学校生活をクラスみんなで大切にしようという思いを高めるようにする。そして、昨年度とは違う絹に染められた草木染スカーフを提示し、「去年とは違ったことができそう。つくってみたい。」という思いをもつことができるようにする。実際に染物をつくる活動については、昨年度の学習をふり返りながら、試しの草木染を行うようにする。

これまでハンカチやスカーフにしか染めたことがない子どもたちにとって、他にどんな染物をつくることできるのかイメージをもつことは難しい。そこで、伝統的な技法をいかした染物を販売している布四季庵を訪ねるようにする。本物の染物を見た子どもたちは、「こんな物がつくれるんだ。」「こんな模様をつけられるんだ。」といった思いをもつと考える。そこで、同じような興味を持った子同士のグループで活動を行うようにする。その際、巾着袋やクッションなど縫製作業が必要な場合は、お家の人の協力も得るようにする。

「今までの学習で学んだことをいかして自分のつくりたい染物をつくりたい」という思いを実現するために、染物の製作活動をおこなう。その際、草木染の染物への見方や考え方の広がりを実感することができるよう、これまでの染物づくりの体験を通して、わかったこと、感じたことなどを、ふり返りながら今後の取り組みについて考えるようにする。そうした上で、さらに草木染のよさが自分のものとして見えてくるようにするために、染物講師の真下さんとかかわる場面を設定する。その際、真下さんには、技や工夫についてだけでなく、これまで草木染を研究してきた中で苦労や、草木染に対する思いについて多く話してもらうようにする。

子どもたちは、これまで学習してきた草木染のよさについて伝えたいという思いをもつと考える。その表現方法は、これまでの学習経験から「染物を贈りたい。」「わかったことを図鑑にまとめてみたい。」「写真をつかって新聞にして知らせたい。」と多岐に分かれることが予想される。その場合は、目的に合わせて、どの方法が一番良いか自分の考えで決定してよいこととする。

総合的な学習の時間の学習指導のイメージ

探究的な学習における児童の学習の姿

